

緑と水辺のまちづくりに関する WEB フォーラムの概要と開催結果

《WEB フォーラム概要》

千葉市から新たな計画の要点となる部分をまとめた計画骨子案の概要を説明し、その後、千葉市新みどりと水辺の基本計画策定委員会の木下剛会長及び押田佳子副会長から、グリーンインフラ及び都市デザインに関する話題を講演いただきました。これらの講演の後、参加者と意見交換をしました。

《実施時期》

令和4年(2022年)4月23日/当日視聴者39名



木下会長



押田副会長



千葉市公園緑地部長



千葉市緑政課長

WEB フォーラム当日の1コマ

主な意見
・利用のネットワーク、例えば、散歩とかポタリングなど、利用の促進を計画に盛り込んでどうか。近隣公園など、身近な公園の利用を増やす取組を充実してはどうか。郊外の住宅地の近隣公園は美しい公園だが利用者が少なく寂しい感じ。二つを盛り込むことで「健康」や「コミュニティ」への効果が高まると思う。
・海辺、川辺、山辺は、隣接する自治体につながっている。浦安から千葉にかけてのアーバン的な海辺、花見川から新川、印旛沼、利根川に続く川辺などが一つの例。広域的な視点や連携は観光にも繋がる。自治体をまたがる計画的連携も必要かと思う。
・予め、雨水を貯めて利用し、緑を育てる家づくりを、民間(住宅メーカー、建設業界など)と連携していくことで、小さな取組が多く集まり、グリーンインフラを進める大きな力となると思う。
・土中環境の改善が盛り込まれているのは、画期的に思った。空閑地の暫定利用が盛り込まれていたが、現在の取組や今後の展望が知りたい。谷津田もグリーンインフラの1つに捉えることができると思う。
・コロナ禍で保全作業を中断した結果、従来なら除草されていた植物の生息が確認でき、今は大事にする様に保護している。
・都市によっては「緑と水辺を観光に活かす」という視点も重要になると思う。
・今後は「デジタル技術」をうまく活かすことが重要になると思う。
・人が減って、財政が厳しくなる状況では新しく公園をつくるよりも、地域の土地を使いたいときに使うとか、暫定性・暫定利用の視点が重要になると思う。